

# スペイン語の女性名詞 *cantidad* を含むイディオムの表現について 語列「*cantidad de* + 形容詞あるいは副詞」を中心に<sup>1</sup>

土 屋 亮\*

## Resumen

El sustantivo femenino español *cantidad* es capaz de formar expresiones idiomáticas coloquiales como las siguientes:

- (A) *cantidad* usado como adverbio equivalente a *mucho* como en *Me gusta cantidad*.
- (B) *cantidad* que significa *mucho cantidad* sin ser modificado por ningún cuantificador
- (C) *cantidad de* que funciona como intensificador equivalente a *muuy* como en *Me lo he pasado cantidad de bien*.

En este artículo averiguaremos cómo se han descrito estas expresiones en diccionarios o gramáticas para comprobar que la (C) se ha estudiado poco y que no contamos con suficientes ejemplos en los que aparece la (C) para analizar más esta expresión coloquial, aunque esta es la que le interesa al autor más porque a la preposición *de* no le sigue un sustantivo sino un adjetivo o un adverbio. Por este motivo buscaremos ejemplos primero en el CREA, corpus del español actual de RAE y luego en la Internet para profundizar este tema en el futuro. Nos hace pensar que es necesario recoger más datos así, el hecho de que algunos informantes no conozcan la (C) y sus descripciones sean pocas.

## 1. 問題の所在

*cantidad* はスペイン語で「量」を意味する女性名詞であり、フランス語の *quantité*、英語の *quantity* に相当する。ところが、元来の語義と用法の延長線上に派生する形で、秋元（2002）が言うような「イディオム化」の道をたどりつつあると考えられる。それは、以下の3種類の表現である。

- (A) *cantidad* 単独で動詞句を修飾する副詞的用法
- (B) 語列「*cantidad de*+ 名詞句」で「*mucho(a)s*+ 名詞句」の意味となる用法
- (C) 語列「*cantidad de*+ 形容詞・副詞」で *cantidad de* が「強意」の副詞句となる用法

(A)は例えば以下の(1)のように、「とても・かなり」の意味で用いられる用法である。ニュアンスの違いを無視すれば、副詞 *mucho* と同じ機能を果たしていると言える（下線と日本語訳は筆者による）。

- (1) "... y yo he leído tus dos novelas que me gustan mucho, no las entiendo del todo pero me gustan cantidad..." 「で、私はとても気に入ってるあなたの小説2冊を読んで、全然理解できてないけど、それでもすっごく気に入ってるのよ」  
(CREA<sup>2</sup> : Conget, José María, *Todas las mujeres*, España, Novela, Alfaguara, Madrid, 1989)

この(1)においては、登場人物が先に *me gustan mucho*

\* 福岡大学言語教育研究センター外国語講師

<sup>1</sup> 本稿は、2012年3月31日に神戸市立兵庫勤労市民センターにおいて開催された、関西スペイン語学研究会第350回例会で、筆者が『語列「*cantidad de* 形容詞あるいは副詞」についての予備的調査』という題目で発表した内容に基づいている。その会において貴重なコメントをくださった諸先生方に、この場を借りて感謝いたします。なお、「語列」という語はスペイン語の *secuencia*、英語の *sequence* の意味で用いている。また、本稿はスペイン語以外の言語を専門とする読者がいる可能性も想定し、スペイン語の文法的特徴・語義等について多少説明的に執筆している。

<sup>2</sup> CREA とは、Real Academia Española（スペイン王立アカデミー）が提供する現代スペイン語コーパスの名である。

と言っておいてから、そのすぐ後で *me gustan cantidad* と言ひ、副詞の *mucho* を *cantidad* に置き換えている。これが単独で動詞句を強調する副詞的な用法の(A)である<sup>3</sup>。

次に(B)であるが、この語列においては *cantidad* に形容詞がなんら付加されていないにもかかわらず、「多量の・たくさんの」を意味する。下の(2)で確認してみよう(下線と日本語訳は筆者による)。

(2) Bernardo- Es que ahora hay unas sectas que obligan a sus socios a reprimirse. ¡Ufl, cantidad de gente anda reprimida. ベルナルド—「というのも、会員に自らを抑圧するようにしむけるセクトだって今はあるんだ。ああ、多くの人が抑圧されている！」

Paloma- Claro. Por eso hay cantidad de gente desgraciada. パロマー「そうね。だから不幸な人が多いのね」

(CREA : Sierra, Miguel, *Palomas intrépidas*, ESPAÑA, Teatro, SGAE, Madrid, 1990)

ここに現れる *cantidad de gente* を「人々の数」というふうに解釈しても意味をなさず、「多くの人々」と取らざるを得ない文脈である。なお、*cantidad de gente* を *mucha gente* と置き換えても論理的な意味は変わらない。これが(B)にあたる。

そして、(C)であるが、この「*cantidad de* + 形容詞あるいは副詞」という語列は、現代の口語スペイン語において、「とても・かなり～な(に)」という意味で用いられ、*cantidad de* が一つの副詞のように機能する。そして、括弧 ([ ]) で表すような句構造を構成する。以下に例を挙げよう(下線と日本語訳は筆者による)。

(3) Es [cantidad de]vergonzosa]. 「彼女はかなり恥知らずだ」(*Diccionario del estudiante*)

(4) ... ellos lo medían [cantidad de]bien]. 「・・・彼らは実にうまくそれを計算していたものだった」(*Sevillatoro.com*, [http://sevillatoro.com/opinion\\_detalle.asp?id\\_opinion=610](http://sevillatoro.com/opinion_detalle.asp?id_opinion=610))

(3)では、問題の *cantidad de* という語列の後に *vergonzosa* という形容詞が続き、(4)では副詞の *bien* が続いている。スペイン語では副詞は不変化詞であるが、形容詞は形容する対象となる名詞の文法性と数に合わせて形態が屈折する。ここに現れている *vergonzosa* という形態は女性の単数形であり、それは(3)の文の主語に一致してい

る(ただし、その主語そのものはここでは具体的な音形を取っていない)。したがって、この *vergonzosa* という語は、前置詞 *de* に後続してはいるが形容詞としての文法的な素性を保持しており、*cantidad de* という語列が選択されているという表現効果を度外視すれば、(3)の文の構造は、以下のように一語の副詞 (*mu*) を用いる場合と同じである。また、(4)についても同じことが言えよう。

(5) Es [mu]vergonzosa]. 「彼女はとても恥知らずだ」

(6) Ellos lo medían [mu]bien]. 「彼らはとてもうまくそれを計算していたものだった」

ところで、形容詞には繫辞動詞などの補語となる叙述用法と、名詞句を直接修飾する限定用法がある。(3)に現れる *vergonzosa* の場合は、*Es* が繫辞動詞であるので、前者の例であるが、以下のように「*cantidad de* + 形容詞」の語列が名詞を直接限定する場合もある。

(7) ¿Nunca te han dicho que tienes unos ojos [cantidad de]bonitos? 「君はとても素敵な目をしてるって、誰かに言われたことないの?」

(CREA : *¿Pero esto qué es?*, 20/10/89, TVE 1, ORAL, España, Magacines, 1989)

*cantidad de* に後続する形容詞 *bonitos* が、その被修飾語である *ojos* と文法性と数において(男性・複数)一致しており、先の(3)の例同様、形容詞が名詞を直接修飾する場合においても、形容詞はその文法的素性を失っていないことが分かる。

以上、女性名詞 *cantidad* を含むイディオムの表現(A)、(B)、(C)の事例を概観した。本稿では、これらの現象について、現状でどのような記述がなされているかを確認し、その事例を収集および検討する。筆者は、スペイン語の前置詞が名詞以外のものを項とする<sup>4</sup>—事例として、前置詞 *de* が形容詞や副詞を後ろに伴う(C)の語列に特に関心を抱いているが、筆者が意見を求めた二人のスペイン語母語話者がこの表現について、『このような言い方は正しくない。存在しない』というコメントを寄せてくれた上<sup>5</sup>、筆者自身も今回(A)、(B)、(C)を調査するまで、これらについて不知であった。とはいえ、使用例は実在し、後述するように、辞書等においても記述がなされている。また、本稿では決定的なことは何も言えないが、*cantidad* の副詞化が起こっている(A)と、形容詞なしで「多量」を意味する(B)、そして、他の形容詞や副詞を

<sup>3</sup> 日本語においても、くだけた会話で「うちの子は、量食べるんですよ」と言う場合がある。

修飾する語法の(C)は、相互に関係性があるだろうということは想像に難くないし、それは通時的な連関かもしれない。したがって、今後の調査の深度が求められるが、まずは本稿において事例を収集することによって、将来のさらなる調査のための端緒としたい。

とまれ、次節では、辞書や個別の著作等においてこれらの表現がどのように記述されているのかを確認していくことにしよう。

## 2. 現象の記述

### 2.1 スペイン語や英語での記述

まずは、(A)、(B)、(C)の現象を記述している辞書や著作の中でも、洋書を取り上げることにし、その後和書を確認する。このような区別をするのは、日本で刊行される著作は海外のものに内容的に追従しやすいという傾向がうかがえるからである。さて、全体的な特徴としては、後述する和書についても同様であるが、(C)についての記述は、(A)と(B)のそれよりも圧倒的に少ないということが挙げられ、反対に(A)の現象はよく知られているようである。例えば、Styles Carvajal and Horwood (1998) の *The Oxford Spanish Dictionary 2nd edition* (以下 OSD と呼ぶ) では、元来の女性名詞としての *cantidad* よりも先に、その副詞的用法が独立して立項されており、以下のような例が挙げられている (下線は筆者による。また、英語訳は OSD による。以降も同様)。

*cantidad*<sup>1</sup> adverbio (familiar): este suéter abriga cantidad “this sweater is really warm”;  
me gustó el libro cantidad “I really liked the book”, “I liked the book a lot”;  
comimos cantidad “we ate tons o loads”  
(familiar)

OSD (1998: *cantidad* 1の項)

OSD はこの用法の *cantidad* を adverbio (副詞) として分類・立項しているが、(C)については言及していない。また、(B)については、通常の女性名詞としての *cantidad* の項目の語義 3 において、「*número, volumen impresionante* (驚くべき数・量)」と記述し、以下のような例を挙げている。議論しやすいように番号を振っておく。なお、些細なことだが、文例が小文字から始まり、句点が無いのは OSD の記述のとおりである。

(8) *había una cantidad de mosquitos impresionante*  
there were an incredible number of mosquitos;

(9) *no te puedes imaginar la cantidad de gente que había*  
you wouldn't believe how many people there were;

(10) *mira la cantidad de comida que hay*  
look how much food there is, look at the amount of food there is;

OSD (1998: *cantidad* 2の項)

ここで *cantidad* の語義を「驚くべき量」とはしているが、(8)においては *impresionante* という形容詞が付加されているし、(9)と(10)においては、「多量」の意味を想定しやすい *no te puedes imaginar* (you wouldn't believe) や *mira* (命令文の look at) といった文脈における用例を挙げている。これらは、*cantidad* という語単独でというよりは、文脈上「多量」と解釈可能な例であると言えよう。

次に、単著から Stewart (1999) を取り上げよう。Stewart (1999) は、現代スペイン語の内部変化や他の言語との接触を中心に取り上げ、その諸相を論じたもの

<sup>4</sup> スペイン語においては、前置詞の後続要素として名詞以外に、形容詞や他の前置詞などが現れうる。筆者はこの点に関心を持っているが、これは英語にも見られる。以下にイエスベルセンの言を引こう。

なお一言しておきたいが、述詞は動詞のあとばかりではなく、いくつかの不変化詞、英語では、とりわけて *for, to, as* のあとにも見いだされるのである。

I take it for granted. (それは当然のことと思っている)

[中略]

興味深いのは、このように前置詞 *for* が形容詞 (分詞) を支配できることで、これはほかの場合には不可能なのである。

I gave myself over for lost. (わたしは、自分はもう駄目だとあきらめた)

(イエスベルセン2006: 359-361、旧訳の同じ箇所1958: 167-168)

上に引用したイエスベルセンによって挙げられている *I take it for granted* や *I gave myself over for lost* の *for granted*、*for lost* がそうであるし、また、以下の例によって示す、文法化した表現 *far from* や *next to* に後続する語句の例が挙げられよう。

Those people are far from innocent. (秋元2002: 150)

I was near to distracted. (秋元2002: 158)

以上のような例から、前置詞とは一体何の「前に置く」品詞なのかなどと考えることは一見稚拙に映るかもしれないが、品詞論上の重要な問題だと思われる。ただ、上に挙げた *far from* や *next to* のような例の場合は、文法化しているという事実によって、これらを一つの副詞句とみなすならば、そのような問題は霧散し、その方が理論的にも都合がよい場合があるだろう。

<sup>5</sup> この二人のスペイン語母語話者は、1: スペイン国バレンシア市出身、30代男性と、2: ベルギー出身、40代女性のお二人である。お二人とも大学教員をされており、筆者に評する資格は全くないが、大変に教養のある方々である。

だが、品詞転換 (Conversion) を論じている箇所では、*cantidad* の副詞的用法、すなわち(A)を挙げている。

(Conversion)... A feature of colloquial and advertising speech has been an increased use of certain adjectives as adverbs as in *se portó genial conmigo* or the use of nouns as adverbs *se pasó cantidad*.

Stewart (1999 : 80)

ここで Stewart (1999) は、形容詞 *genial* の副詞的用法と、名詞 *cantidad* の副詞的用法についてふれているが、*cantidad* に関してはこれ以上の記述は見られない。

辞書に戻ろう。RAE(2001)の *Diccionario de la lengua española 22ª edición* (以下 DRAE と呼ぶ) では、(A)と(B)についての記述はあるものの、(C)についての記述はない。以下にその箇所を引く (ただし、下線と「」内の日本語訳は筆者による)。

*cantidad*

7. adv. c. coloq. **mucho** (en alto grado). *Me gusta cantidad*. 「私はそれが大好きだ」// ~de. loc. adj. **mucho** (// abundante, numeroso). *Tengo cantidad de cosas que hacer*. 「しなくてはならないことがたくさんある」 *En esta tienda hay cantidad de vestidos*. 「この店にはたくさんのドレスがある」

DRAE (2001 : cantidad の項)

品詞名の“adv. c. coloq”とは *adverbio de cantidad coloquial* (口語で用いられる、量を表す副詞) を意味し、また、語義については(A)と(B)のいずれの用法についても端的に *mucho* と説明されている。(B)にあたる例文は、先の OSD とは異なり、文脈上「多量」の解釈となるものではなく、*cantidad* という語のみで「多量」を意味していると考えられる例が挙げられており、的確である。それでは次に、口語俗語辞典ではどうであろうか。一例として Sanmartín Sáez (2002) を見てみる。こちらでも用法としては、(A)と(B)の二つのみを取録し、以下のような記述をしている (やはり「」内の日本語訳は筆者による)。

*cantidad*

1. adv. **Mucho**. ◆ *Esta peli me mola (gusta) CANTIDAD*. 「私はこの映画が大好きだ」  
2. *cantidad de algo* loc. **Mucho**. ◆ *Tengo*

*CANTIDAD de sueño, esta noche saldré*. 「とても眠いが、今晩は出かけるよ」

Sanmartín Sáez (2002 : 185)

例文は異なるが、この記述の仕方は RAE (2001) を踏襲していると言えるだろう。ここでも(A)にあたる例として、動詞 *gustar* とそれと同義の口語表現である *molar* を含む例が挙げられ、(A)と *gustar* が共起する確率の高さを想像させる。なお、例文中の大文字とイタリックは原文のままである。では、次に、詳細な記述と精神的に改定を行うことで定評のある Butt and Benjamin の *A New Reference Grammar of Modern Spanish* (以下、B&B とする) を確認してみよう。今回は、RAE y ASALE (2009) の *Nueva gramática de la lengua española* (『スペイン語新文法』) の出版<sup>6</sup>を受け改定された、最新の第5版を見てみる。なお、英語訳は B&B によるものである。

Familiar speech uses some nouns as intensifiers--not to every taste, as the translations show :

*Lo pasamos bomba (now old-fashioned?)*

We had a terrific time

*Canta fenómeno* (S) he's a smashing singer

*Nos aburrimos cantidad / Nos reímos cantidad*

We were bored stiff / Did we laugh!

B & B (2011 : 429)

この B&B では、副詞の中でも強意表現を扱った箇所において、本稿の調査対象である *cantidad* を含め、元來名詞であるにも関わらず、強意語として副詞的に用いられる語の例を、上で引いたように記述している。本稿で検討している現象の中では、(A)についてのみ記述が見られる。なお、B&B が *cantidad* 以外の語で挙げているのは、*bomba* (女性名詞・「爆弾」の意) と *fenómeno* (男性名詞・「現象」の意) である。

以上、ここまで紹介した著作の中で、筆者が特に関心を寄せる(C)の現象を記述しているものはなかった。(A)と(B) (あるいは(A)のみ) についての記述は数多く見られるが(C)について記述をしているものは実際少ない。そこで、(C)の例となる(3)を引いてきた *Diccionario del estudiante* を手に取ることにしよう。その *cantidad* の項を見ると、下のような記述があり、(A)、(B)、(C)、いずれの現象も取り上げられている。また、(B)の記載が(A)より

<sup>6</sup> スペイン王立アカデミーと、スペイン語圏各国のアカデミーの集合体であるアカデミー協会の連名で出された最新の文法書である。その編集方針は、「記述と規範の間を調整する」となっている。アカデミーの名で出版されたものとしては、1931年版の『スペイン語文法』以来というのが公式見解だが、その間には、1973年の『スペイン語新文法の素描』、1994年の Emilio Alarcos Llorach による『スペイン語文法』、1999年の『スペイン語記述文法』があり、これまで全く文法書がなかったというわけではない。この辺りの事情は本書の序文に詳しいが、いずれにしても2009年12月の本書出版以降、この文法書をどのように活用し、その内容にどのように応じるかが、スペイン語研究者一人一人に求められていると言える。なお、本稿で検討している現象は本書に取り上げられておらず、考察対象からは外している。

も先に来ているという特徴もある (下線と日本語訳は筆者による)。

f.3. Porción grande de algo o abundancia de personas o cosas. *Cantidad de jóvenes acudirán al concierto*. 「多くの若者がそのコンサートに行くだろう」 *Hay cantidad de cuestiones más importantes que esa*. 「それよりも重大な問題が数多くある」 // adv. 6. coloq. Mucho. ¡*Tu moto me gusta cantidad, tío!* 「お前のバイク、すげえいいなあ！」 // ~de. loc.adv. coloq. Seguido de un adjetivo: Muy. *Es cantidad de vergonzosa*. 「彼女はかなりの恥知らずだ」 (既出(3))

*Diccionario del estudiante* (2005: cantidad の項)

*cantidad de* という語列が副詞的に用いられる表現については、上に引用したとおり、端的に *muy* の意味であるとしているが、「形容詞に後続されて」という記述がなされており、どういう訳か、既に見た例文(4)のように、他の副詞が後続する可能性を考慮していない。また、*Cantidad de jóvenes acudirán al concierto*. という例文では、現代スペイン語においては通常現れにくい無冠詞の主語が動詞前位置に現れており、数量表現として固定化しつつあることを想わせる。

さて、これまではもっぱら洋書に見られる(A)、(B)、(C)についての記述とその用例を調査した。(C)については我々が挙げたように用例はかなり以前からあるものの、その記述はいまだ少ないようである。今度は以下の節において、日本で出版されている西和辞典の数点について確認し、その記述を見てみることにする。

## 2.2 西和辞典における記述

この節では、日本で出版されている西和辞典の中で、現在入手が容易であって、主要出版社から出版されているものを4冊取り上げ、それらが *cantidad* の項目をどのように記述しているかを概観することにする。ここで取り上げる4冊とは、白水社『現代スペイン語辞典改訂版』(1999)、研究社『プエルタ新スペイン語辞典』(2006)、小学館『西和中辞典改訂版』(2007)、三省堂『クラウン西和辞典』(2009)である。この選択は筆者の主観によるが、ポケットサイズではない学習者用中型西和辞典としては、ほぼこれで全てであり、そのことに異論を挟む向きはいないだろうと思われる。以下、出版年順に見ていく。

まず、白水社の『現代スペイン語辞典改訂版』(1999)であるが、これには(A)と(B)の記述が見られる (以下、引用の形式を取らず簡潔に紹介する。用例の日本語訳はそれぞれの辞典による)。

*cantidad* (女性名詞)

- ③多数: Se concentró [una] ~ de gente. 大勢の人が集まった / realizar una gran ~ de viajes 非常に数多く旅行する / ~ de regalos たくさんの贈り物  
⑤《口語》[副詞的]非常にたくさん: Éste come ~. こいつはものすごく食べる

③が(B)にあたり、⑤が(A)にあたる。③の語義においては、端的に「多数」としながらも、用例の中に「大きい」を意味する形容詞 *grande* を含むものが見られるなど、*cantidad* 単独で「多数・多量」を意味するというイディオム化が進みつつある(B)の現象と、単に「量」を意味する通常の用例の区別が曖昧な点が少々ある。また、(A)については「副詞的」としてはいるが、副詞として独立の項を立てずに済ませている。そして、(C)に関する記述は本書においては見当たらなかった。

では次に、研究社から出ている『プエルタ新スペイン語辞典』(2006)を見てみる。*cantidad* の項では、下のよう、女性名詞としての語義の3番目に(B)の記述があり、副詞として(A)の用法を示している。

*cantidad*

- (女性名詞) 3 たくさん、ずいぶん // ¡*Qué cantidad de gente!* ずいぶん人がいますねえ!  
(副詞)((話)) たくさん、ずいぶん、多く (=mucho)

語義3の箇所では、*Qué* を用いた感嘆文を用例として採用している。また、*cantidad* を副詞的に用いる(A)の用法の記述では、端的に *mucho* と同義であるとし、用例を示してはいなかった。ただ、(B)の ¡*Qué cantidad de gente!* という用例は、「たくさん」の意味が、*cantidad* という語に由来するのか、あるいは感嘆文であるという点に由来するのかやはり曖昧であろうと思われる。また、本書にもやはり(C)の記述は見られなかった。

それでは次に、2007年に改訂版が出された小学館の『西和中辞典』を見てみる。同書では、(A)と(B)に関して以下のような記述が見られる。

*cantidad*

- (女性名詞) 3 ((話)) 多量. ~ de ... たくさんの ... Hay ~ de edificios altos en esa zona.  
「その地区には高いビルがたくさんある」  
(副詞)((話)) たくさん; とても La comida me gustó ~. 私はその料理がすごく気に入った

(B)については、語義の3番目として「多量」という説明がなされ、(A)については、副詞として扱われている。ま

た、ここでもやはり(C)の記述は見られなかった。

では最後に、三省堂の『クラウン西和辞典』(2009)を取り上げよう。同書は、日本の出版社が出しているスペイン語の中型辞典の中でも、現時点において最新のものであり、本稿で扱っている現象に関しては、取り上げた辞書の中で最も詳細な記述をしている。(A)、(B)、(C)のいずれについても記述がある。

cantidad (女性名詞)

②[(una)～deの形式で]〈話〉多数、大量、多額。

Se concentró ~ de gente para protestar por el nuevo impuesto. 新税に反対するために大勢の人が集まった。

cantidad de...〈話〉(1)たくさんの、大量の、多くの。

Hoy tengo *cantidad de* cosas que hacer. 今日はずることがたくさんある。Había *cantidad de* gente en el concierto. コンサートには大勢の人が来ていた。(2)非常に (= muy) Pinta *cantidad de* bien. 彼は非常に絵がうまい。

cantidad (副詞)

〈話〉非常にたくさん、ものすごく、ずいぶん。divertirse ~大いに楽しむ。reírse ~大笑いする。trabajar ~ものすごく働く。Te quiero ~. 君が大好きだ。Ese chico es idiota ~. その若者は大馬鹿者だ。

女性名詞 *cantidad* の語義の2番目として、「多数、大量」を挙げ、上記のとおり、その中で用例を挙げるほか、さらに *cantidad de* を熟語として収録し、第一の用法として語義②と同じ語法を繰り返している。これが(B)に当たる。そして、第二の用法としているのが本稿で取り上げている(C)の現象であり、文例が一つある。また、同書は *cantidad* を副詞的に用いる(A)の用法について、その品詞を副詞として項目の最後に収録し、文例および動詞句のみ(不定形で表示)の例を挙げている。以上、ざっと見たように、取り上げた4冊の中ではこの『クラウン西和辞典』がもっとも詳細であった。

ここで、(A)と(C)を例証する『クラウン西和辞典』の例文の中でも、以下の二つが本稿にとって重要であるので、これらを本稿の(11)および(12)として、下に再録し考察する(なお、下線は筆者による)。

(11) Pinta cantidad de bien. 彼は非常に絵がうまい。

(12) Ese chico es idiota cantidad. その若者は大馬鹿者だ。

今回調査した西和辞典の中で唯一見つかった(C)を例証する例文は、(11)のみである。先に見た *Diccionario del estudiante* においては、*cantidad de* の意味を端的に *muy* としながらも、形容詞が後続する、と説明されていたが、(11)には副詞の *bien* が現れている。これは(4)で示したとおり、可能な例である。この点において、同書は、本稿で取り上げた既出の洋書においてもほとんど見られなかった(C)について例文を挙げ、かつ、*Diccionario del estudiante* の記述に追従しなかった。このことは、海外の、特にスペインで出版される辞典に追従しがちな西和辞典にあって、特筆に値すると思われる。さらに同書は、(12)のような例を収録している点において興味深いと思われる。というのも、(12)は(A)を例証するために収録されたものだが、*cantidad* を用いずに、ニュアンスの差を度外視した(12)と同義の文を作るとすると、

(13) Ese chico es muy idiota.

となるのであって、

(14) \*Ese chico es idiota mucho.<sup>7</sup>

とは言えないからである。しかしながら、(12)のような語法については、本稿のテーマからは少し逸脱するが、García Page (1997) の以下のような指摘もある(あとに引く例文の日本語訳は筆者による)。

También existen palabras autónomas que expresan superlación (*tela, cantidad, mogollón, etc.*) que admiten ambas posiciones, pero, evidentemente, ya no se trata de «frases»: «Juan es cantidad feo»/«Juan es feo cantidad». Es posible que en posición antepuesta se haya producido el desgaste y la pérdida definitiva de la preposición *de* que encabezara el complemento: *cantidad [de] feo*; asimismo, pospuesta, también suele abreviarse la fórmula eliminando la preposición: *[en] cantidad*.

[García-Page 1997 : 141-142]

つまり、García Page によれば、*Juan es cantidad feo*. 「ファンはかなりブサイクだ」や *Juan es feo cantidad*. (先の文と同義) のような文が可能であり、そして、前者は *cantidad de feo* から前置詞の *de* が脱落したもの、後者は *feo en cantidad* という語列から前置詞の *en* が脱落したものであるという。筆者は本稿で検討している語列を今回の調査で初めて知ったため、この García Page の指

<sup>7</sup> これを英語に試訳してみると、(13) That boy is very silly. と(14) That boy is silly very much. となり、後者の不自然さが明らかとなる。

摘も無論今回が初見であるが、この指摘が正しいとすると、本来形容詞や副詞が強調される場合、他の副詞がそれに先行するのが文法的であるが、この語法については副詞的な働きをする *cantidad* が強調する語に対して後置されるという、さらに検討に値する現象を呈する。本稿ではこの点には深く立ち入らないが、この口語的な表現を、類書が記述をしていない中、文例として採録している『クラウン西和辞典』の積極的な姿勢を評価しておくべきだと思われる。

以上、西和辞典を4点確認してみたが、(C)について記述しているのは『クラウン西和辞典』のみであり、例文も(11)しか得られていない。次の節では、今後のさらなる調査のためにも、辞書によらずに例を採取してみることにする。

### 3. (C)の用例調査

これまでの調査を通じて得られた(C)を例証する文例は、(3)、(4)、(7)、(11)だけであり、そのうち文献からは(3)、(11)だけであった。(4)と(7)は本節で調査して得られた文例を先に紹介したものに過ぎない。本節では、今後のさらなる考察のためにも、CREA<sup>8</sup>やインターネット上からの文例の採取を試みたいと思う。以下では、それらを調査媒体別に分け、まずはCREAでの結果を、次にネット上で調査したものを提示することにした。

#### 3.1 CREAでの調査結果

スペイン王立アカデミーが提供するCREAは現状、1975年から2004年までの出版物をコーパスの母体とし、1億5400万形態の量を誇るが、口語のデータも1割ほど含まれている。また、データの量に多寡の別はあるものの、スペイン語圏全体を収録対象としているため、検索条件に地域・国名を指定することも可能である<sup>9</sup>。ところで、スペイン王立アカデミーのような公的機関が提供するコーパスを利用するにしろ、検索エンジンを使ってインターネット上の文字列を直接検索するにしろ、“*cantidad de*”という文字列を検索したならば、通常の*cantidad*の用例が数多くヒットし、我々が求める文例を見極める作業は困難なものとなるのが容易に想像できる。一方、これまでの調査で確認したとおり、多くの文献において(C)の語法は「口語的」という記述がなされ

ていた。したがって、この点を考慮に入れ、話し言葉において多用されるような、好悪、善悪、美醜、上手・下手などの意味を表す語を選択し、語列の調査を試みた。

さて、今回の調査では以下の語列を検索してみた(他の条件はなし。また、以下の「」内はおおよその意味)が、CREAでの結果は芳しいものではなかった<sup>10</sup>。なお、形容詞は名詞の文法性と数に合わせて形態が屈折するため、性および数を変化させたそれぞれの形態で調査している(以下の表示では男性単数形で代表させている)。

[副詞が後続]

*cantidad de bien*

「大変良く・上手に」: 該当例なし

*cantidad de mal*

「大変悪く・下手に」<sup>11</sup>: 該当例なし

*cantidad de lejos*

「大変遠くに」: 該当例なし

[形容詞が後続]

*cantidad de bueno*

「大変良い」: 該当例なし

*cantidad de malo*

「大変悪い」: 該当例なし

*cantidad de rico*

「大変豊かな・金持ちの」: 該当例なし

*cantidad de pobre*

「大変貧しい・可哀想な」: 該当例なし

*cantidad de guapo*

「大変ハンサムな・美人の」: 該当例1件

*cantidad de feo*

「大変醜い」: 該当例なし

*cantidad de bonito*

「大変素敵な・かわいらしい」: 該当例1件

*cantidad de importante*

「大変重要な」: 該当例なし

*cantidad de fuerte*

「大変強い・(事態が) 厳しい」: 該当例なし

*cantidad de fatal*

「大変悪い・どうしようもない」: 該当例なし

*cantidad de genial*

「大変素晴らしい・拔群の」: 該当例なし

*cantidad de listo*

「大変利口な・準備の整った」<sup>12</sup>: 該当例1件

<sup>8</sup> 註2を参照。

<sup>9</sup> 作家名、作品名、地域・国名、年代の幅、収録テキストの主題(生物学、経済学、音楽、建築、趣味、スポーツなどといったもので100種類以上)を指定することが可能である。<http://corpus.rae.es/creanet.html>を参照されたい。

<sup>10</sup> むろん、(C)の語法にあてはまらないものは多数見つかる。

<sup>11</sup> スペイン語の*mal*という副詞は、英語では*badly*、*ill*、*wrong(ly)*などと訳出できよう。

<sup>12</sup> 「利口な」と「準備の整った」では意味にずいぶん開きがあるように感じられるかもしれないが、スペイン語には繫辞動詞が2種類(*ser*と*estar*)あり、そのどちらと共起するかによって意味が変わる形容詞が存在する。*listo*という語はその代表格と言える。

cantidad de tonto

「大変間抜けな・馬鹿な」：該当例なし

cantidad de amable

「大変優しい・親切的な」：該当例なし

cantidad de caro

「大変値段の高い」：該当例なし

cantidad de barato

「大変値段の安い」：該当例 1 件

cantidad de lento

「大変遅い」：該当例なし

cantidad de pequeño

「大変小さい」：該当例なし

cantidad de cansado

「大変骨の折れる・疲れている」<sup>13</sup>：該当例なし

cantidad de aburrido

「大変退屈な・退屈している」<sup>14</sup>：該当例なし

cantidad de caliente

「大変熱い」：該当例なし

cantidad de frío

「大変冷たい」：該当例なし

cantidad de pesado

「大変重い・しつこい」：該当例なし

cantidad de ligero

「大変軽い」：該当例なし

cantidad de sexy

「大変セクシーな」：該当例なし

(11)の例にも現れていた *cantidad de bien* という語列は、たとえ数が少なからうと CREA でも散見されるだろうと踏んでいたが、期待は裏切られた。その点については後述するが、まずは見つかった例を確認していこう。*guapo* (実際には女性単数形 *guapa*) の例で得られたのは以下の文である (以降、文例中の下線と日本語訳は筆者による)。

(15) REYES (Sirviendo dos vinos) Lo que sí tengo es una china cantidad de guapa. 「僕にあるものといえば、とびきり美人の中国人の女の子だよ」 ¿Te hace un canuto? Alivia los rechazos. (CREA : Pedrero, Paloma, *Invierno de luna alegre*, España, Teatro, Fundamentos, Madrid, 1987)

(15)は劇作品中に登場する人物のセリフとして上のように現れている。ここでの *guapa* は名詞句 *una china* を修飾する限定用法の形容詞であり、同名詞と文法性・数にお

いて一致している。次に、*bonito* (実際には男性複数形の *bonitos*) の例はすでに紹介した(7)である。ここであらためて紹介はしないが、やはり名詞を修飾する限定用法であった。そして、*listo* を含む文例は以下のものである。

(16) - Estás cantidad de listo, ¿no te joroba? -terció Maica-. Anda, ve y vístete. 「まあ、ずいぶんと準備万端ね。勘弁してよ。ほら、あっちへ行って服を着なさい」 (CREA : Tomás García, José Luis, *La otra orilla de la droga*, España, novela, Destino, Barcelona, 1985)

この *listo* は繫辞動詞 *estar* と共起する主格補語であり、叙述用法の形容詞である。主語は表示されていないが、動詞の形態から 2 人称単数の *tú* であることが分かり、*listo* という形態からそれが男性であるということが示されている。では最後に、*barato* (実際には女性単数形の *barata*) を含む例を確認しよう。次の例文中では、Elena と Chusa という登場人物がアフリカへの旅行を計画している場面で、Elena が「(安宿に) ノミが出るんじゃないの」と心配しているところである。

(17) CHUSA.- Que no pasa nada, y es cantidad de barata además. 「そんなのなんでもないわよ。しかも、すごく安いだよ」 Es lo más barato allí. Cuesta diez dirjan la noche; unas doscientas pesetas. (CREA : Alonso de Santos, José Luis, *Bajarse al moro*, España, Teatro, Antonio Machado, Madrid, 1990)

ここに現れる形容詞 *barata* は繫辞動詞 *ser* と共起する叙述用法で、女性単数形になっている。女性単数形になっているのは、表示されていないが主語が *la pensión* (女性名詞「宿屋」の意) であるからである。

さて、以上 4 つが上記の文字列を検索して今回 CREA から得られた文例である。選択した副詞や形容詞の妥当性に問題があったのかもしれないが、後述するインターネット上での検索結果を考慮に入れると、この CREA における結果の少なさは少々特異であると言えるかもしれない。それは話し言葉のデータが少ないということもあるが、時に「頑固だ」<sup>15</sup>と評されることもある CREA の性質を反映しているかもしれない。これが極端に新しい流行語のようなものではなく、(16)のように1985年のデータも存在することを考えれば、実際にはもっと使用

<sup>13</sup> *cansado* という形容詞は、*ser* と共起すると英語の *tiring*、*estar* と共起すると *tired* の意味となる。

<sup>14</sup> *aburrido* という形容詞も同様で、*boring* と *bored* の意味を持つ。

<sup>15</sup> (異形態間の選択について、実状は *fuereño* という形態が圧倒的な優勢にも関わらず、*afuereño* という語しか提示しない CREA のデータについての評価で) pero los datos del CREA son tozudos… 「しかし、CREA のデータは頑固である・・・」 (Clavería Nadal 2002 : 49)



されていてもおかしくはない。そのことを確認すべく、次の節でインターネット上において検索して得られたデータを見ることにしよう。

### 3. インターネット上での調査結果

本節においては、Google を用いて文例を調査してみたいと思う。Google のような巨大かつ強力な検索エンジンで文字列を検索すれば、安心して読むことのできないようなページも出てくることは容易に想像できるが、辞書においてもまだあまり記述されていない現象の文例を探すのであるから、そこは割り切ることにする。なお、統計調査ではないので、拾うことのできた例の数などを示すことには関心を持たない。また、ここでは、先の CREA における調査で得られなかった、*cantidad de* の後に副詞 *bien* が続く例を拾っていくことにする。

さっそく得られた文例を以下に提示するが、そのうちの一つは既に見た例(4)であり、やはりここでも再録は控える。

(18) Me lo he pasado cantidad de bien. Los amos, una gente muy legal. 「実に気分良く過ごさせていただきました。ご主人たちはとても頼りがいのある人たちでした」(*Toprural*, Opinión sobre Casa La Cueta Alto-Sil de andreumateu10, [http://www.toprural.com/andreumateu10/opini%C3%B3n-Casa-La-Cueta-Alto-Sil\\_103584\\_o.html](http://www.toprural.com/andreumateu10/opini%C3%B3n-Casa-La-Cueta-Alto-Sil_103584_o.html))

(19) Se acerca la esperada ceremonia de los KCA 2012 en la que Will Smith hace de presentador... [中略] ¡y que dejan claro que nos lo vamos a pasar cantidad de bien viendo la gala el 31 de marzo! 「ウィル＝スミスが司会を務めるキッズチョイスアウォーズの祭典が近づいてきた。[...] 3月31日のこの祭典を見れば、超盛り上がること間違いなしだ!」(*Superpop.es*, 19 de marzo de 2012, ¡*El loco anuncio de los Kids Choice Awards!*, <http://www.superpop.es/noticias/todas/el-loco-anuncio-de-los-kids-choice-awards>)

(20) Nos van llegando más vídeos con escenas de la peli de Miley Cyrus y Ashley Greene : LOL (Laughing Out Loud). [中略] No te lo pierdas, Miley interpreta cantidad de bien a Lola. 「マイリー＝サイラスとアシュリー＝グリーンの出演する映画 LOL のビデオが届いてきてるぞ。[...] 見逃すなよ。マイリーがローラを見事に演じているぞ」(*Superpop.es*, 3 de febrero de 2012, *Miley Cyrus. Ficha su escena picante en LOL*, <http://www.superpop.es/>

[noticias/todas/miley-cyrus-ficha-su-escena-picante-en-lol](http://www.superpop.es/noticias/todas/miley-cyrus-ficha-su-escena-picante-en-lol))

(18)は宿泊した民宿やペンションの評価や感想を書き込むウェブページ、(19)と(20)は少年少女向けの、芸能関係やアニメ、人気歌手などの情報を伝えるウェブページである。(19)と(20)は偶然同じページからの例となったが、いくつかの辞書での「口語的」という説明のとおり、他にも個人のブログ、恋愛相談などをするコミュニティサイト、Yahoo! 知恵袋のような質問する者とそれに回答する者が集まるサイト、趣味を同じくする者たちの掲示板や youtube のコメント欄などに含まれる語列がヒットした。その中にはここで提示しにくい内容のものや、内容が断片的過ぎる、専門的過ぎて筆者に理解できない、明らかに非母語話者による執筆だと思われる、などの理由で選びにくいものが多数あり、文として理解が容易な上記3つの文例 ((4)を含めると4つ) を選び出した。

以上をまとめるならば、インターネット上での調査においては、辞書における記述のとおり非常に口語的で、文例としての質に難点があるものの、先に見た CREA での調査結果とは異なり、調査して得られる結果が少な過ぎるということではなかった。しかしながら、今後イディオム化や文法化といった観点からこの語列を調査するならば、小説や劇作品などから多くの文例を得るのが望ましいと思われるが、この点、CREA での調査結果を考慮に入れても、現時点では少し難しいようである。

### 4. 終わりに

本稿の主たる目的は、筆者自身も調査する前は不知であった *cantidad* を含むイディオムの表現(A)、(B)、(C)について、特に、人によってはスペイン語母語話者でさえも不知である(C)の用法について、その記述を確認し、使用例を集めることにあった。また、直接この語列についてふれている先行研究は、日本語によるものでは見当たらなかったが、スペイン語で書かれたものが一点ではあるが Garcia-Page (1997) のものが見つかった。その意味では目的はある程度果たせたと見えよう。筆者は、前置詞が名詞以外の品詞の語句を後続要素として取る現象に関心があり、そこから(C)について知った。他言語の類似の語列で、英語の *far from* や *next to* について註4でふれたが、これらの例ほどスペイン語の(C)は現象自体が定着しているとは思われないし、先の第3節で見たようにレジスター上の限定性もはっきりとある。それゆえ、記述研究も少なく、したがって、辞書に掲載されることも少ない、ということが言えるのではなかろうか。いずれにしても、本稿が提示した(C)についての記述や先行研究、そして、いくらかの文例が、(C)の存在を知らしめ、今後の研究の足がかりとなることを願うものである。

## 参考文献

- 秋元実治 (2002) 「第 6 章 Far from の文法化、イデオム化」『文法化とイデオム化』ひつじ書房、東京、pp.149-159。
- Butt, John and Carmen Benjamin (2011) *A New Reference Grammar of Modern Spanish -5<sup>th</sup> edition-*, Hodder Education, London.
- Cascón Martín, Eugenio (2000) *Español coloquial 2<sup>a</sup> edición ampliada*, Edinumen, Madrid, pp.43-44.
- Clavería Nadal, Gloria (2002) *Filología en Internet*, Universidad Autónoma de Barcelona, p.49
- García Page, Mario (1997) *Formas de superlación en español : la repetición*, VERBA, vol.24, pp.133-157. ([http://dspace.usc.es/bitstream/10347/3284/1/pg\\_135-160\\_verba24.pdf](http://dspace.usc.es/bitstream/10347/3284/1/pg_135-160_verba24.pdf) から取得)
- O. イェスベルセン [半田一郎訳] (1958) 『文法の原理』岩波書店、東京。
- イェスベルセン [安藤貞雄訳] (2006) 『文法の原理(上)』岩波文庫。
- 中島文雄 (1980) 『英語の構造 上・下』岩波新書。
- Real Academia Española (RAE) y Asociación de Academias de la Lengua Española (ASALE) (2009) *Nueva gramática de la lengua española*, Espasa, Madrid.
- Stewart, Miranda (1999) *The Spanish Language Today*, Routledge, London, pp.61-95.

## 辞書・コーパス等

- 原誠他編 (2009) 『クラウン西和辞典』三省堂、東京。
- Lesley Brown (ed.) (1993) *The New Shorter Oxford English Dictionary*, Oxford University Press, Oxford.
- 宮城昇他編 (1999) 『現代スペイン語辞典改訂版』白水社、東京。
- Real Academia Española : Banco de datos (CREA) [en línea] *Corpus de referencia del español actual*. <<http://www.rae.es>> [2012年 3 月30日最終アクセス]
- Real Academia Española (2001) *Diccionario de la lengua española 22<sup>a</sup> edición*, Espasa-Calpe, Madrid.
- Real Academia Española (2005) *Diccionario del estudiante*, Santillana, Madrid.
- Sanmartín Sáez, Julia (2002) *Diccionario de argot 3<sup>a</sup> edición*, Espasa-Calpe, Madrid.
- 高垣敏博監修 (2007) 『西和中辞典第 2 版』小学館、東京。
- 上田博人他 (2006) 『プエルタ新スペイン語辞典』研究社、東京。
- Styles Carvajal, Carol and Jane Horwood (1998) *The Oxford Spanish Dictionary 2nd edition*, Oxford University Press, New York. (and the electronic version of its 3rd edition, 2003)